

日本創生委員会 <第26回 会議骨子>

議事次第

2011年 11月 17日(木) 11:30~13:30

於：東京會館一 ロイヤルルーム ※出席者は別添資料:「委員名簿」ご参照

- 三村会長挨拶

- 全体討議

第1部 「復興～未来創生特別委員会」からの中間報告

「緊急プロジェクト提言」フォロー状況と成果

「中間とりまとめ(案)」について

第2部 第1部をベースとした全体討議

- 寺島委員長総括

< 三村会長挨拶 >

- 創生委員会では、3月11日の震災後の4月に「復興～未来創生特別委員会」を創設、東京都市大学の中村総長が委員長にご就任され、30数名におよぶ専門家の方々が、精力的に延べ十数回の会合を持たれたと聞いております。本日は、その活動の中間報告ということで中身を伺うのを非常に楽しみにしております。
- 先般、TPPに関する交渉参加に向けた協議に入ると表明されたが、国を二分する議論がなされたなかで、首相が1つの方向を示したというのは、私の学生時代の安保闘争以来ではないか。日本は現在色々な課題を抱えているが、この決断によってそうした課題が解決の方向にいくのではないだろうか、また、内外共に、日本は変化できる、というポジティブなメッセージを与えたのではないだろうか、私自身は非常に喜んでおります。

< 第1部「復興～未来創生特別委員会」からの中間活動報告 「緊急プロジェクト提言」フォロー状況と成果 >

- 6月の提言発表後、提言で述べた「必要とされる施策」を具現化するため、政治レベルでの高次の働きかけと同時に、行政担当・実務レベルへの働きかけという二面からの実現運動を展開。政治レベルでは、大畠国土交通大臣（当時）を始め、政府要人や有力議員に提言説明実施。実務レベルでは、国交省を中心に各省のテーマの担当局と度重なる打ち合わせを行った。その経緯もあり、ほとんどのテーマについて予算がつき、具体的な施策展開が図られた。提言の実現という大きな目標達成は概ねできたかと思う。

（各論については別添資料参照）

<第2部 第1部をベースとした全体討議（中間とりまとめ案について）>

<特別委員会の「中間とりまとめ」（案）について全体討議を行った。例えば以下のような多様な意見が出された>

- 本委員会の提言は、国等に対する要望のとりまとめではなく、産業界としてこの復興について自分は何をするのか、自分たちがどういう形でこの復興に対して関与していくのかというところのエネルギーがあふれていないといけない。
- 例えば、農業や水産業の再生に如何にして我々自身が参画し、産業界で蓄積してきた資本や技術を注入して、再生をサポートするのだという姿勢が大切。
- この提言の方向感としては、創生型のプロジェクトを東北にどういう形で実現していくかということが重要。

< 寺島委員長総括 >

- アジア諸国は、今回の震災、復興にたいへんな関心を持って日本を見つめており、日本に対する期待とか、支援のメッセージを強く感じる一方、必ずしも日本の復興、再生を心から祈っているかというところ、そうでもない。そういうなかで我々は、アジアとの連帯、連携というものがこれからの日本の活力にとって大事だということも言うまでもないが、日本自体の空洞化を避けて、自律自尊で立ち向かっていかなければいけない。ナニクソ魂がものすごく問われている局面にある。
- 創生委員会の復興にあたる基本スタンスというのは、日本の空洞化を避けて先端的な分野を切り開き、活力と競争力を失っている分野を産業界をもって盛り上げていく、そういう思想のもとに立ち向かっていかなければいけないのだということ腹に据えてやっていきたい。

第 27 回日本創生委員会

■ 日 時 : 平成 23 年 12 月 15 日 (木) 11:30~13:30

■ 会 場 : 東京會館

■ 議 事 : I. 寺島委員長総括

「(仮) 2011年の総括と2012年の展望」

II. 日本創生委員会タスクフォース

「グローバル人材育成テーブル」からの最終報告